



玉島にゆかりのある二人の画家

池田遙邨・坂田一男顕彰記念室は玉島にゆかりのある二人の画家、池田遙邨・坂田一男の業績とまつわる品々を紹介する展示室になっています。

生涯にわたり旅と自然を愛した日本画の巨匠、池田遙邨は歌川広重に憧れ、広重の足跡をたどり東海道五十三次を法被姿で徒歩で写生旅行しました。

晩年は若い頃より心惹かれていた、種田山頭火の俳句をモチーフにした画作に全身全霊を傾けました。

日本一抽象絵画の先駆者と言われる坂田一男は、パリで本格的にキュビズムを学び、帰国後は玉島のアトリエで抽象絵画の可能性を追求、唯一無二の境地を拓きました。

◆ 施設のおすすめ

当施設には池田遙邨の歩み、坂田一男の歩みとして、二人の生涯をパネルで展示・解説されています、併せてモニターも設置され、その年代の代表作や自身の言葉なども見るできるようになっています。

中央にあるスペースには、それぞれの作品や画業を支えた道具、愛用の品などが展示されその人となりをのびせる大変貴重な資料が展示されています。

記念室では二人の生涯を紹介する漫画が配布されています。また、作品の修復過程をパネル展示しており、倉敷市の大切な財産である作品を50年100年先にも残す努力の一端を知ることができます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

池田遙邨・坂田一男は玉島にゆかりの深い画家で、今でも多くの人々に愛されています。

日本画の風景画と洋画の抽象画という画風や歩んだ人生は異なるものですが、理想の作品を作り上げるための努力とその情熱は相通じるものがあります。

生涯を通して残してきたものから、彼らの息吹を感じてもらえればと思います。



池田遙邨



坂田一男



池田遙邨の生涯



坂田一男の生涯



池田遙邨にまつわる品々



坂田一男にまつわる品々



二人の生涯を描いたまんが



絵画の修復過程